

DMP意見交換会のフィードバック及び 2023年度格納ダッシュボードに関する説明会を実施

(ブランディング)

2月9日（金）、当機構のブランディング戦略の一つであるDMP運用事業の一環として、四国の各県観光担当、各県観光協会、四国内DMO等を対象に、DMP活用の推進を目的とした説明会を実施しました。

説明会では、2023年8月に四国各県で実施した意見交換会で出た意見を反映したダッシュボードや、今年度新たに構築したダッシュボードについて説明し、活用方法を紹介しました。

当事業は四国の観光に関わる自治体・DMO等が従来の「経験や勘、思い込み」ではなく、データに基づき施策を展開できるよう推進しているものであり、当機構のDMPが、今後の各団体における課題解決のための立案や意思決定などに活用されることを目指しております。

今後も引き続き、DMPをより一層活用いただけるよう、事業を展開して参ります。

(実施日) 2024年2月9日（金）

(実施場所) オンライン

(参加者) 同時接続数52回線

(業務受託者) (株) ヴァリュース ソリューション局 和田、石田、岡崎

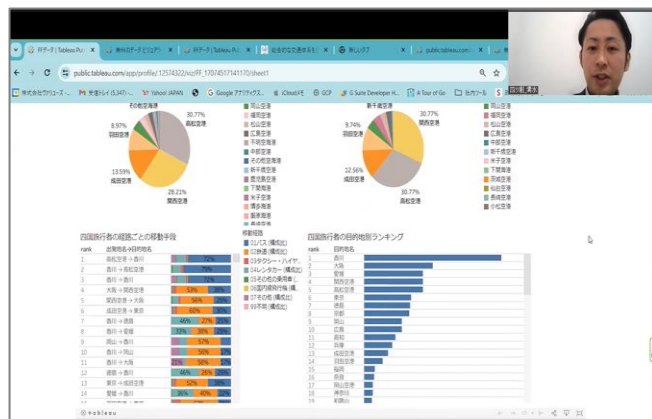
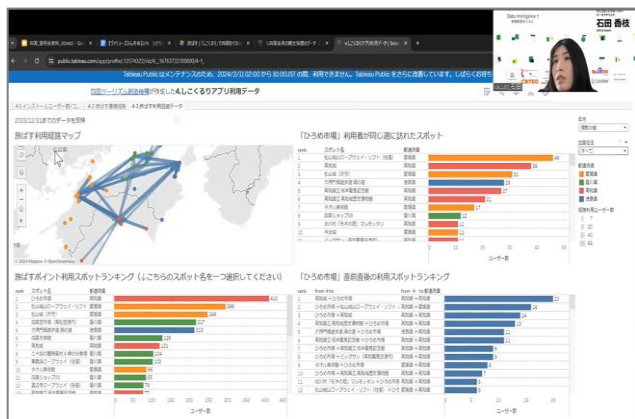
(機構参加者) 桑村本部長、神野副本部長、清水CMO、坂本マネジャー、大上マネジャー

(導入ダッシュボード) オープンデータ …【1-2-2】外国人国籍区分別宿泊者数

…【5-1～5-3】訪日外国人流動データ(通称：FFデータ)

機構保有データ …機構HP【3-2-3】四国内の年月別最多閲覧月観光スポット数

…旅アプリ「しこくり」の【4-3】旅ばす利用回遊データ



<今年度新たに導入したダッシュボードの内容や実務を想定したダッシュボードの活用方法について説明>

「四国『持続可能な観光』推進ネットワーク第6回会議」を実施

(ブランディング)

2月14日（水）、四国「持続可能な観光」推進ネットワークの第6回会議をオンラインと対面のハイブリッドで開催しました。今回、新規会員として伊方町にご入会いただき、会員数は21団体となりました。

会議では、事務局から2023年度事業の報告と2024年度事業の方向性、特に2024年度はGSTCサステナブルツーリズム研修プログラムの実施を予定していることを説明しました。

その後、(一社)サステナビリティ・コーディネーター協会の久保業務執行理事より「Top100プログラム制度概要など」、四国運輸局の福池係長より「令和6年度観光支援メニュー」、四国経済産業局の増見係員より「『TEAM EXPO 2025』プログラム」についての情報共有をいただきました。また、参加の会員からは、各団体の2023年度事業の総括と2024年度事業の計画を共有をいただきました。

次回、第7回会議の開催は2024年6月ごろを予定しております。

(実施日時) 2024年2月14日(水) 14:00～16:30

(実施場所) 高知会館 3階 弥生(高知市)

(参加者) 32名 会員: 19団体

アドバイザー: 四国運輸局

オブザーバー: 高知県、四国銀行

(機構参加者) 桑村本部長、竹内チームマネジャー、

坂本マネジャー、佐伯マネジャー



GSTCサステナブルツーリズム研修プログラムの受講とSTTP試験合格の報告

(ブランディング)

2023年12月20日～22日の間、香川県小豆島で実施されたGSTCサステナブルツーリズム研修を受講し、終了後にSTTP試験を受験しました。

この度、STTP試験に合格し、「GSTC Professional Certificate in Sustainable Tourism」の証書を取得しましたので、ご報告いたします。

【STTPとは】

持続可能な国際基準を策定・管理している国際非営利団体GSTCが提供しているすべての研修プログラムの総称。今回は、STTPのうちの「サステナブルツーリズム研修」を受講し、3日間の研修にて、旅行・観光のサステナビリティにおける国際基準であるGSTC基準を学習した。

【GSTC Professional Certificate in Sustainable Tourismとは】

サステナブルツーリズム研修を修了し、試験に合格すると取得できる認証で、持続可能な観光の原則についての知識や原則を適用し具体的に行動する能力があることの実証となる。

(機構受講者) 竹内チームマネジャー



四国地区経済同友会との意見交換会を実施

(ブランディング)

2月19日(月)、四国地区経済同友会の皆さまとの意見交換会を高松市で実施しました。

今回が初めての開催となった意見交換会では、冒頭、桑村本部長の挨拶の後、「四国の観光ビジョン」や「第5次四国交流戦略」の施策における関係団体との連携について説明するとともに、今年度当機構が取り組んでいる事業の進捗状況などを報告しました。

その後、出席いただいた4県の経済同友会の観光振興及び観光推進の委員長などから、各同友会の取り組みなどをご説明いただき、四国の広域観光推進に向けた意見交換を行いました。

また、意見交換会後は交流会を開催し、引き続き連携しながら「四国の観光ビジョン」を推進していくことを確認しました。

(実施日) 2024年2月19日(月)

(実施場所) 香川経済同友会会議室(高松市)

(経済同友会参加者) 観光振興又は推進委員会の委員長、事務局員ほか9名

(機構参加者) 桑村本部長、松本統括副本部長、神野副本部長



<意見交換会の様子>

「持続可能な観光推進人材育成事業」の最終報告会に参加

(ブランディング)

2月20日（火）、日本版持続可能な観光ガイドライン（以下、JSTS-D）に基づく持続可能な観光を実践するための人材育成プログラムとして観光庁が実施する「持続可能な観光推進人材育成事業」の最終報告会に参加しました。

当事業ではこれまでに、JSTS-D理解促進のための動画視聴や理解度確認テストの受講、先進地視察、JSTS-Dを活用した自地域のアセスメント（分析）とアセスメントレポートの作成を実施しました。

最終報告会はオンライン形式で実施され、これまでに行ったアセスメントの結果や、受講者間のディスカッション等を基に特定した自地域で必要な取り組みとその実行計画の発表を行いました。各受講者による発表後は、受講者それぞれの上長や有識者の方からコメントをいただきました。

当事業への参加は、四国「持続可能な観光推進ネットワーク」の今後の展開や、職員個人の持続可能な観光に取り組む姿勢について考える有意義な機会となりました。今後は、当事業で得た学びを活かして、四国の持続可能な観光の推進に取り組んでまいります。

（開催日）2024年2月20日（火）

（開催場所）オンライン

（参加者）観光庁「持続可能な観光推進人材育成事業」受講者11名とその上長

（機構参加者）桑村本部長、神野副本部長、竹内チームマネジャー、松本チームマネジャー、大上マネジャー、佐伯マネジャー

DMPの先進事例の視察と意見交換を実施

(ブランディング)

当機構のブランディング戦略の一つであるDMP運用事業の一環として、先進的にDMPを導入している団体や今後導入を予定している自治体などを訪問し、マーケティング担当者やDMP担当者と面談を行いました。

訪問では、既にDMPを導入しているDMOから、DMPの活用推進に向けた取り組みをヒアリングを行い、DMPの活用に向けては、日常業務の中でデータに触れることや、「データを見て仮説を立てる」ことの習慣化が重要であることを改めて認識しました。

また、データによる観光地マネジメントの先進地であるハワイ州観光局との意見交換では、DMOとそのステークホルダー間においては、普段からデータに基づき建設的に対話することが重要であり、その積み重ねが地域の危機（コロナ禍での観光客の激減や災害）を救う際に大きな力となること等を助言いただきました。

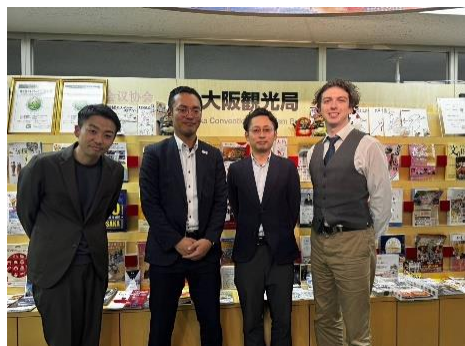
今回の訪問で得られた知見や関係団体との繋がりを活かし、更なるDMPの活用を推進してまいります。

（実施日）2024年2月20日（火）～2月22日（木）

（訪問先）（公財）大阪観光局、（一社）中央日本総合観光機構、

ハワイ州観光局（「DMO観光地域づくりセミナー」）、東京都、（株）Salesforce

（機構参加者）清水CMO、坂本マネジャー



<大阪観光局DMP担当者との意見交換>



<ハワイ州観光局との意見交換>



<中央日本総合観光機構との面談>

四国の観光資源を用いたマーケティング実践研修 / 少人数グループによるアクション・ラーニングを実施（四国経済連合会との共同事業）

（ブランディング）

当機構と四国経済連合会は、昨年度に引き続き共同で、四国域内のDMO等の観光マーケティング担当者を対象として顧客起点のマーケティングのプロセスや視点など学ぶマーケティング実践研修を実施しました。

今年度の研修では、昨年度学んだマーケティングプロセスの基礎研修の結果を踏まえつつ、それぞれが所属する団体やエリアに関係する素材を扱いながら、実務の中で活用するノウハウの習得を目指しました。

受講生は、数カ月に及ぶ実践的な研修のなかで、それぞれが対象とする事業について、ターゲット（Who）を明確にし、提供価値（What）と、その伝え方（How）を決めていく一連のコミュニケーションの基本フレームを学びました。さらに、今後の事業に活かせる実践的なターゲットを設定したうえで、数回のインタビュー調査を実施し、ブラッシュアップしながら具体的なアクションプラン（マーケティングプラン）を作成しました。

今回の研修を通じて、受講生にはそれぞれが所属する団体やエリアのターゲットが「どう考えるか、感じるか、行動するか」を理解しながら事業を展開することの重要性を改めて認識いただくとともに、学んだノウハウを今後の実務の中で活かす実践力を習得していただくことができました。

（開催日・テーマ）

	開催日	テーマ
第1回	9月29日	WHO-WHAT-HOW の設計
第2回	10月17日	WHO-WHAT-HOW のブラッシュアップのためのリサーチ設計 （インタビューによるリサーチ 1 回目）
第3回	11月13～14日	WHO-WHAT-HOWへの反映 （インタビューによるリサーチ 2 回目）
第4回	12月5日	WHO-WHAT-HOW の再ブラッシュアップ
第5回	1月19日	メッセージの言語化（コンセプトの作成）
第6回	2月15～16日	メッセージのブラッシュアップ （インタビューによるリサーチ3 回目）
第7回	3月1日	ターゲットへのメッセージの作成

（受講者からの声）

- ・ もともと構築したWHOの人物像に沿ったインタビュー対象者を見つけることがいかに難しいか学んだ。
- ・ マーケットインの考え方について、理解が深まった。
- ・ 普段業務で感じていながら、気付かなかったキーワードやターゲットの具体的な人物像が明確になった。

（講 師）（株）ホジョセン 高橋社長、牧野氏、金瀬氏

（受講生）（株）伊予銀行、四国旅客鉄道（株）、せとうち観光専門職短期大学、
（一社）土佐れいほく観光協議会、当機構 清水CMO、坂本マネジャー 計12名

（主催者参加）四国経済連合会 安藤事務局次長、竹安調査役、中井調査役
当機構 神野副本部長



<研修の様子>

小豆島視察及び第9回「四国周遊型ワーケーション推進協議会」を開催

(マーケティング)

2月1日(木)に、四国周遊型ワーケーション推進協議会(以下、協議会)の活動の一環として、小豆島視察及び第9回協議会を実施しました。今回の視察は、現地での交流を通じたワーケーションの意識啓発や知見拡大を目的に、小豆島観光協会に全面的なご協力をいただき実現しました。

視察では、まず二十四の瞳映画村を訪問し、小豆島での先進的なSDG sの取組事例の紹介のほか、少子高齢化の進展や税収減少、財源や担い手の不足などの地域課題についても紹介いただきました。

その後、小豆島ふるさと村にあり、香川県のお試しテレワーキング移住促進事業のコワーキングスペースに認定されている「うちみかふらっと」(利用料金330円/時間、1,650円/日)を視察し、利用状況等を紹介いただきました。また、ワーケーション対応型宿泊施設の1つである「オーキドホテル」も視察しました。

視察後は、小豆島国際ホテルにて、第9回協議会を開催しました。協議会では、冒頭、半井代表幹事の挨拶の後、小豆島観光協会から小豆島でのワーケーション推進の取り組みについて動画などにより改めて紹介いただきました。その後、その他の受入地での取り組み紹介と、会員間の意見交換を実施しました。

また、当機構からは、ホームページ上に開設しているランディングページ「Workation in Shikoku」について、現在進めているワーケーション受入地情報の追加の進捗状況を報告しました。

【ワーケーション受入地の視察】

(実施日時) 2024年2月1日(木) 12:00～17:00

(視察先) 二十四の瞳映画村、うちみかふらっと、オーキドホテル(小豆島)



<二十四の瞳映画村の視察>

【第9回四国周遊型ワーケーション推進協議会】

(実施日時) 2024年2月1日(木) 17:00～18:00

(実施場所) 小豆島国際ホテル(小豆島)



<うちみかふらっとの視察>

(機構参加者) 半井代表理事(代表幹事)、

桑村本部長、神野副本部長、清水CMO



<会議の様子>

マーケット研修を実施

(マーケティング)

2月5日(月)、観光庁、JNTO、四国運輸局との共催で、マーケット研究会をオンラインで開催しました。マーケット研究会は、JNTOの海外事務所長から現地市場についての知見や動向等を共有していただくことを目的に2部制で実施しました。

第1部では、JNTOのニューヨーク事務所の山田道昭所長に「米国市場へのアプローチ方法や米国人旅行者の動向」と題してご講演いただきました。

第2部では、山田所長との個別面談を希望する団体により、1団体あたり20分程度で、面談を行いました。

第1部、第2部ともに活発な意見交換がなされ、また、後日実施したアンケートでも良好な回答をいただくことができ、有意義な機会となりました。

今後も関係機関と連携を図りながら、インバウンド誘客を推進してまいります。

(実施日) 2024年2月5日(月)

(実施場所) オンライン

(参加者) 12団体18名

(機構参加者) 桑村本部長、松本統括副本部長ほか5名



欧州レップよりOTTを一般公開・ニュースレターを発信

(マーケティング)

当機構の欧州レップの活動の一環として、旅行会社等のスタッフを対象としたオンライントラベルトレーニング(以下、OTT)を公開しました。OTTは3月まで実施予定です。

また、四国の観光情報をメールマガジン形式で発信しているニュースレターについて、「四国のアクティビティと異文化体験」をテーマに3回目の発信を実施しました。以下のURLからぜひご覧ください。

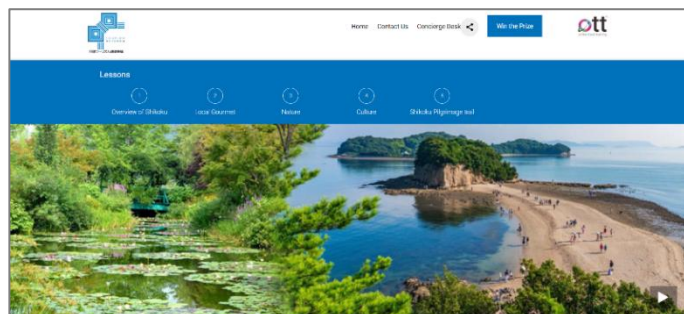
【オンライントラベルトレーニング(OTT)について】

参加者がオンデマンド方式により、5回に分けた四国観光に関する講習をWEB上で受講し、全問正解者にはスペシャリストとして認定証を授与。スペシャリストに対しピンポイントで四国を含む商品造成のアプローチ等が可能。

【ニュースレター(3回目)】

(配信先) イギリスを中心とした欧州の旅行会社 約3,200社

(URL) <https://x.gd/CHkFM>



<OTTイメージ>



<ニュースレターイメージ>

首都圏地区における旅行会社セールスを実施

(マーケティング)

昨年度に引き続き、四国4県およびJR四国と連携し、首都圏(東京)地区における旅行会社セールスを実施いたしました。

今年度は、教育旅行(修学旅行)を取り扱う旅行会社の支店を訪問し、当機構が作成した教育旅行用のコンテンツ冊子と四国4県から提供いただいた教育旅行に関する情報を提供するとともに、首都圏から四国への修学旅行誘致の可能性を探るため、旅行会社が必要としている情報のヒアリングを行いました。

あわせて個人向け・団体向け旅行商品の造成部署も訪問し、昨年10月に実施した四国観光商談会以降の新たな四国の観光情報や当機構の施策を説明するとともに、旅行会社の次年度の施策や商品造成の状況について情報提供いただき、さらなる四国への送客を依頼しました。

(実施日) 2024年2月26日(月)～3月1日(金)

(訪問先) 旅行会社17社(23部署)

(機構参加者) 長谷部チームマネジャー、竹内チームマネジャー、別宮マネジャー、佐伯マネジャー

四国観光・旅アプリ「しこくり」で 地域特集ページ「巡る・得する 徳島旅・鳴門旅」を公開

(マーケティング)

当機構が運営する四国観光・旅アプリ「しこくり」において、更なる利用促進を図るため、アプリ内に地域特集ページ「特集 地域のおすすめを見る!」を開設し、その取り組みの一環として、イーストとくしま観光推進機構と共同で、徳島・鳴門エリアの周遊促進、域内コンテンツの利便性向上及び地域一体でのDX化を目的とした「巡る・得する 徳島旅・鳴門旅」ページを公開しました。

イーストとくしま観光推進機構によるこの取り組みは、観光庁補助金事業「面的DX 高付加価値化事業」に採択され実施するもので、「しこくり」にGPS機能を搭載し、徳島・鳴門エリア来訪者へのタイムリーな情報発信を行うとともに、取得した動向データを分析し、今後のマーケティングに活用することとしております。

また、徳島旅・鳴門旅の特集ページ公開にあわせて、3月1日から3月31日までの間、「巡る・得する 徳島旅・鳴門旅」と題し、「しこくり」内応募フォームで徳島・鳴門旅行に関するアンケートにお答えいただいた先着100名の方に「しこくり 旅パス」3ポイント(1,250円相当)をプレゼントするキャンペーンを実施しております。

今後も、イーストとくしま観光推進機構との取り組みをはじめ、関係者の皆さまと連携し、「しこくり」の利用促進を図ることにより、地域周遊及び四国周遊の促進、観光消費額の拡大に取り組んでまいります。



DMO全国会議へ参加

(その他)

2月6日(火)、観光庁が初めて全国の339のDMO(登録:282団体、候補57団体、2023年9月26日時点)を対象に開催した「DMO全国会議」に参加しました。

開会挨拶では、高橋観光庁長官から、「DMOは、多様な関係者との調整を通じ、合意形成し観光地をマネジメントする役割を担うこと。インバウンドに関する受入環境の整備(ネイティブによる正しい外国語での多言語化やWi-Fi環境整備、キャッシュレス化)。関係者と連携したプロモーションを実施し、取り組み効果を最大限に発揮すること。価値に見合った値付けを行い、得られた収益を地域に還元し、次世代に引き継ぐ観光地づくりが必要。」との話がありました。

第1部の基調講演では、観光庁の中村観光地域振興部長から「観光の現状と今後の取組」、株式会社小西美術工芸社のデービッド・アトキンソン代表取締役社長からは「DMOの役割」について講演がありました。

その後、先駆的DMOによる取組発表・パネルディスカッションが開催され、JTIC.SWISSの山田代表がモデレーターを勤め、パネラーとして一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューローの多田会長、公益財団法人京都市観光協会堀江マーケティング専門官、一般社団法人下呂温泉観光協会の瀧会長が登壇され、それぞれの団体の先進的な取り組みや特徴などについて発表がありました。

第2部のDMOによるPRでは、全国の希望する36のDMOが、我がDMOの取り組みについて全国のDMOに向けてPRを行いました。

四国内のDMOからは、その郷、ツーリズム徳島、小豆島観光協会、愛媛県観光物産協会、当機構がそれぞれPRを行いました。

当機構からは、桑村本部長が登壇し、～四国が「サステナブルアイランド」になるために～「四国『持続可能な観光』推進ネットワーク」の活動について強烈にPRしました。

今後も、観光庁や関連するDMOと連携を図りながら、四国観光の推進を図ってまいります。

(開催日) 2024年2月6日(火) 13:00～15:00

(開催場所) 中央合同庁舎2号館地下2階 議堂(東京都)

(機構参加者) 桑村本部長、松本統括副本部長



<高橋長官による開会挨拶>



<パネルディスカッションの様子>



<四国ツーリズム創造機構のPR>

「四国遍路シンポジウム」に出席

(その他)

2月13日(火)、四国運輸局主催の「四国遍路シンポジウム」に出席しました。シンポジウムでは、まず(一財)百十四経済研究所の村尾康太理事地域振興部長より、「DXを活用した四国遍路の受入環境整備に向けた調査事業」について事業報告がありました。

その後、基調講演として(株)DMC高野山の大田原代表取締役社長が登壇し、「世界遺産・高野山における文化観光地域づくり」についての講演や、「四国遍路の受入環境整備について考える」と題したパネルディスカッションが行われました。パネルディスカッションは、パネリストそれぞれの立場から考える四国遍路が抱える課題について共有された後、参加者からの質問があり、活発な意見交換の場となりました。



<パネルディスカッションの様子>

(開催日時) 2024年2月13日(火) 14:30～17:30

(開催場所) かがわ国際会議場(高松市)

(登壇者) (一財)百十四経済研究所 理事地域振興部長 村尾 康太氏(事業報告)

(株)DMC高野山 代表取締役社長 大田原 博亮氏(基調講演)

四国旅客鉄道(株) 取締役会長 半井 真司氏(パネリスト)

四国遍路英語地図ガイド本著者 松下 直行氏(パネリスト)

インバウンドガイド 細川 治子氏(パネリスト)

トクシマウェルカムセンター ランス キタ氏(パネリスト)

国土交通省四国運輸局 観光部次長 上戸 康弘氏(パネリスト)

(一財)百十四経済研究所 所長 蒔江 政興氏(ファシリテーター)

(機構参加者) 桑村本部長、松本統括副本部長ほか10名

「一日一斉おもてなし遍路道ウォーク」に参加

(その他)

2月23日（金）、NPO法人遍路とおもてなしのネットワーク主催の第9回一日一斉「おもてなし遍路道ウォーク」に参加しました。四国遍路の認知度を高め、世界遺産登録への機運醸成を図る当イベントは、参加人数が9,308人と過去最多となりました。

当機構チームは、志度寺から前山おへんろサロンまでの道を歩き、遍路道の安全性や道案内の適切性、休憩場所やトイレの整備などを点検しました。

(開催日) 2024年2月23日（金）

(参加区間) 第86番札所志度寺～前山おへんろサロン

(機構参加者) 桑村本部長、松本統括副本部長ほか9名



<出発式の様子>



<半井代表理事の挨拶>



<スタート前の記念撮影>

「第3回 徳島県三好市を感じる食事と体験」へ出席

(その他)

徳島県三好市は「食を目的に訪れたいまち」の実現のため、令和3年度から「三好市ガストロノミープロジェクト」に取り組んでいます。宿泊事業者「大步危・祖谷いってみる会」と飲食事業者「まちなかグループ」で、三好市の食材を使用したメニュー開発に取り組んでいます。

2月28日（水）、活動の集大成となるイベント「Miyoshi-City Fair 3rd～第3回 徳島県三好市を感じる食事と体験」に参加しました。

当日は、食のメンターの堀 知佐子氏、食のアンバサダーの大桃 美代子氏を迎え、三好市の食材のご紹介や、新たに開発されたメニューがお披露目されました。

(開催日) 2024年2月28日（水）

(開催場所) 密厳寺（三好市）

(機構参加者) 桑村本部長



<高井三好市長>



<密厳寺でのランチの様子>



<ランチメニュー>

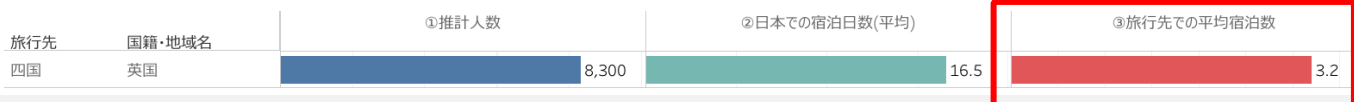


<記念撮影>

【機構DMP FFデータ説明】

ここからは、DMP上で可視化したFFデータの見方、活用イメージについて紹介させていただきます。

四国旅行者に関する ①推計人数 ②平均日本滞在日数 ③平均宿泊日数 (右部のフィルタで集計設定の変更可能)



上のグラフは、2019年に四国を旅行した英国人の

①推計人数

②日本旅行全体での宿泊日数(平均)

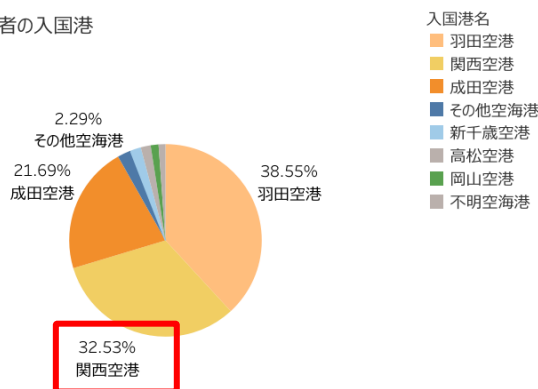
③四国旅行での宿泊日数(平均)

を可視化したものです。

観光立国推進基本計画内でも重要視されている「訪日外国人旅行者一人当たり地方部宿泊数」が

③を閲覧することにより、容易に把握できます。

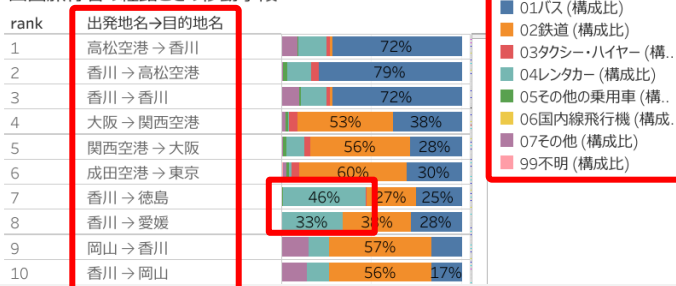
四国旅行者の入国港



左のグラフは、2019年に四国を旅行した英国人の入国空港データです。

ターゲット国ごとに利用者の多い空港が把握できます。2019年は、関西空港が成田空港を上回っており、当時はロンドン～関西空港間の直行便が運航していたことが要因であると考えられます。このことから、直行便就航によるインパクトが大ききことが把握できます。

四国旅行者の経路ごとの移動手段



左のグラフは、2019年に四国を旅行した英国人の

・地点から次の地点への移動ランキング (赤枠左)

・交通手段利用状況 (赤枠右)

を可視化したものです。

全体的にはバス、鉄道の利用者が多いですが、四国内での移動では一定数がレンタカーを利用していることがわかります。(赤枠中央)

【FFデータ施策活用 (イメージ)】

ここまでご紹介したFFデータは、以下のような場面で活用できると想定されます。

- ・四国外エリアの状況を把握し、親和性のあるエリアと連携事業を検討。
- ・既に実施している事業が実際のデータに基づいた効果的なものであるか検証。
- ・旅ナカの交通手段を把握したうえでの、交通事業者とのタイアップ広告の検討。

また、FFデータとあわせて、JNTOの「訪日外国人消費動向調査」や「訪日データハンドブック」、機構のDMPに格納している過去実施調査も活用いただくことで、より多面的な情報を得ることができますので、データに基づく施策検討の際にはぜひご活用ください。

【機構DMPの今後の展開】

今回ご紹介したFFデータについては、現在は2019年のデータのみですが、今後は2023年のデータも追加し、経年でご覧いただけるようになる予定です。また、その他のデータについても、機構HPでの四国遍路のスポット閲覧状況や、四国内の主要観光地入込客数などの可視化を検討しております。

今後も引き続き、機構DMPが会員の皆さまにより活用していただけるよう、事業を展開してまいります。

代表理事の主な動静

2月 1日（木）四国周遊型ワーケーション推進協議会
 8日（木）定例会議・推進会議（当機構の会議）
 27日（火）定例会議・推進会議（当機構の会議）

後援・協賛等

事業名	主催	期間	備考（公式サイト等）
ミュージカル 「坊ちゃん劇場版KANO」	坊ちゃん劇場	2023年4月1日（土） ～2025年3月 予定	https://www.botchan.co.jp/production.html

3月以降の主な予定表

区分	3月	4月	5月	6月	7月	8月
マーケ ティング	 ANA誘遊四国キャンペーン2023（9月～3月） ● 春の四国観光展 （3月16日、17日/神戸市）					
ブラン ディング		● 理事会・臨時社員総会 （3月25日/高松市）				

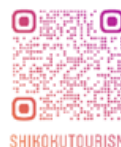
（一社）四国ツーリズム創造機構

事業推進本部 ブランディングチーム 神野、大上

TEL：087-813-0431 FAX：087-813-0312

Facebook <https://www.facebook.com/t.shikoku>

Instagram <https://www.instagram.com/shikokutourism/?hl=ia>



SHIKOKUTOURISM